
【短篇集】ぼっちな神の原作介入～おまわりさん、こっちです～

秋月 実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【短篇集】ぼっちな神の原作介入～おまわりせん、いっちはず～

【Zコード】

N8207Y

【作者名】

秋月 実

【あらすじ】

はじめまして、僕はうあつち。時を司る神です。どうか一緒に遊んでください。わかつて。人間に力を与えて戦わせればいいんだよね。僕も出来るよ！だから仲間に入れてください。ずっと見ていたから、ルールは知ってるよ。だいじょうぶ。

01 中ボス「おまわりさん、ひつじです」

ここは、火竜泉。

広く、セキュリティがしつかりしていて、その割に値段も安め。非常に人気のある温泉だ。

少し大きめの仕事を終えた時はいつも、少し背伸びをしてここに出かけることにしていた。

しかし、今回は、いけ好かない奴ら……神に愛されているとしか思えない才能の塊の奴ら……と一緒になってしまった。
わざと背を向けているからわからないが、ねつとりとした視線はきっと奴らだろ。

……早々に上がるか。

瑣末な贅沢を邪魔された私は、腹を立てながら、更衣室に出る。
ロッカーには、魔具がついている。人の魔力を覚えて感知するこの魔具のお陰で、貴重な装備品も安心してロッカーに預ける事ができるのだ。

私はロッカーについた魔具に人差し指を乗せ、ロッカーを開ける。

……新品の装備品と下着が入っていた。

困惑する。偶然魔力の波長が同じ人間のロッカーを開けてしまったのか？

だが、装備品の上には驚愕すべきものが乗っていた。
私の財布だ。

書いてある名前も中身も確認した。間違いなく私のものだ。私は、困惑してロッカーの中身を見る。そして、状況を確認した。

- 1・新品の装備品と共に私の財布が入っている。
- 2・新品の装備品は私が前から欲しいと思っていたものだ。
- 3・粘着くような視線を感じた。
- 4・私は男である。
- 5・最近、よくなんとも言いようがない違和感を感じる。

ぞつと私の背筋を怖気が走る。
いや、まさかそんな。

そうだ！ 私を陰ながら応援しようというスポーツサーが！ ……
で、そいつが下着を持つていつたのか？

いや、きっと服を間違えたんだ！ …… それはないだろ？
私を事を何らかの理由で探っている者！ なんで装備が新品？
間違えて服を汚してしまって、それでお詫びに。 …… 私はすぐ温泉から上がった。買いに行く時間はなかつたはず。

他の人間と間違えて！ 財布に名前書いてあるよな？
嫌がらせ！

そうか、嫌がらせだ！ きっとこれはあいつらの嫌がせに仕方
ない。

残念だが、それは成功したようだ。
嫌がらせか。

そうだ、嫌がせだ。
ずいぶんと金の掛かった嫌がせだが……、あいつらならやりか
ねん。

でも怖いから確認するのはやめておこう。

今日はこれを着ていくしか無いだろうが、怖いから売つてしまお
う……。

下着は履かない事にする。

「なんだ？ リインテイル。ロッカーを見たまま硬直して」

「ふわああああっー？」

私は驚いて、変な声を出してしまつ。しかも相手は憎々しい、才能に愛された男、レイバードだ。

「なんだよ、その声！ お前、意外に面白いな！ あれ？ ……お前、風呂にはいる前にこんな服着てたっけ？」

「……違つ」

「なんだ、人のロッカー開けちゃつたのか？ なんて偶然。鍵掛け忘れた奴がいたのかな。無用心だな、財布まである」

「……一番上の財布は私のだ。名前も書いてある」

「……」

「……」

「どうしましたか、レイバード？」

「なんだ。何かあつたのか」

レイバードの仲間達がよつてたかつて寄つてくる。晒し者みたいになるのは「めんなので、私は急いで否定した。

「大丈夫だ。問題ないからあつちへいけ」

「いや、問題ないって事はないだろ？ 装備は良くなつていいようだが、でも泥棒じゃないか」

レイバードが私を気遣う。しかし、それはいらぬ気遣いだ。心の気遣いは、そつとしておいてくれる事だと私は思う。事情を聞き、あらうことか調査を始めようとまで言い出したレイバード達を牽制し、手早く下着以外を身につけた。

うう、スースーする。

心配そうな眼差しが不快だ。

そこへ。男湯の控え室へ、神に愛されたとしか思えない凄まじい美女が飛び込んできた。

襟首をひつつかまれて、これまたレイバード達に匹敵する色男が連れてこられている。

当然、場は騒然とした。

私はそいつらに見覚えがあつた。新参者で、かなり腕がいいが馬鹿できもいと言われている冒険者。女がユウで、男がカオルと言つたか。

ユウはカオルをほうり投げ、床に投げ出されたカオルのフードを見事に剣で縫いつけた。

そして、私を射ぬくような目で睨み、ジャンプする。

私はそれよりも、カオルが落とした袋のばら撒かれた中身、……。

俺の装備品と下着にしか見えないものに目が釘付けだつた。

それでも条件反射で構える私達。

カオルは三回転した後、地面に両手と頭をぺつたりとつけ、叫んだ。

「もつつ しわけありませんでしたあああああつー！」

「どうやら、土下座をされているらしい」と思いいたり、俺は戸惑つた。

「うちの姉……兄が！ 兄が！ このバカ兄が！ お怒りは重々承知しておりますが、どうか！ どうか、警察沙汰だけはご勘弁を！ ほらカオルね……カオル兄！ お前も謝れ！ だ、大丈夫です！ 下着は顔にかぶる前に救出したので、多分履いても問題ないです！」

「全力で遠慮する」

「顔にかぶるって何。」

「私は恐怖に体を震わせる。」

「レイバードがさり気なく私をかばった。」

「……カオルってホモなの？」

「大丈夫！ わかつてゐる。イエスやおい、ノータッチ！」

「わかつてねえよぼけっ！ あ！ れ！ ほ！ ど！ 見るだけにしどけつて言つただろ！ リインたんはセファリーナたんと結ばれる運命なんだよ！」

「そんな！ 私はセファリーナたんより、レイバード派なんだけど。ライバルの間に燃え上がる恋ハアハア」

「アホかアアアア！」

「ユウがカオルをぐりぐりと踏みつける。」

「とにかく、どうかお許し下さい…」

意味不明の事を叫び、血の繋がっていない、愛しい妹の名前を知つている謎の冒険者に恐怖を覚え、一、二歩下がる。

「……お知り合いですか？」

「会つたのは今が初めてだ」

「恐ろしいな。大丈夫か。お前妹と二人暮らしだろう？」

心の底から心配される。

しばらく騒いでいると、温泉の管理人が警察を連れてやってきた。

「おまわりさん、いらっしゃいます！」

「またお前らか！ ユウは男湯侵入、カオルは窃盗の罪で現行犯逮捕する！」

「ああ…」めんなさいおまわりさん…

「きやー… やめて…？ ゆるしてリインたん…」

喧騒が去つた後、レイバードはためらいがちに切り出した。

「リインティル。お前、俺のパーティにしばらく入らないか？ アイツら、凄腕つて話だし、厄介だぞ。俺も名前知られてたし、無関係じゃない」

「大丈夫でしたか？ 災難でしたね」

「まあ、新しい装備が入つてラッキーと思つておけ！ ガツハツハ
！ ……アイツらについてはよく調べておく」

私はその言葉に、思わず頷いた。背に腹は代えられない。
これが、かけがえの無い仲間を手に入れるきっかけとなるなんて、
その時の私は思いもしないのだった。

01 中ボス「おまわづかべ、ハツカ」（後書き）

リインテイル：後の「中ボス」。

ユウ：うおつちの信者。TSチートオリ主。

カオル：ウォツチの信者。TSチートオリ主。

レイバード：漫画「魔術師物語」の主人公。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8207y/>

【短篇集】ぼっちな神の原作介入～おまわりさん、こっちです～
2011年11月24日13時49分発行